

◎司会進行 地方創生担当課長（会長決定まで）

1 開会

○開会に当たり、市を代表して副市長から挨拶

改めまして、おはようございます。

本来でございますと、皆様方を委嘱いたしました市長の高谷がご挨拶をさせていただくところでございますけれども、あいにく札幌市に出張中のため、本日不在となっております。

北斗市総合戦略検討・推進会議は、北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、さらには戦略の推進に向けた検証を行うため、平成27年7月に設置し、以来委員の皆様方には大変貴重なご意見、ご提案を頂戴し、心から感謝とお礼を申し上げたいと思っております。

昨年3月に北海道新幹線が開業し、新函館北斗駅周辺はもとより、きじひき高原をはじめとする市内観光施設には、たくさんの観光客にお越しをいただいております。市内の人の流れが大きく変化しているところでございます。

この北海道新幹線の効果を最大限に引き出し、本市の恵まれた地域資源や魅力を結び付けて経済効果を各産業に波及させていくこと、地域の発展に繋げていくことは、私たち行政が今なすべき最大の責務であり、至上命題であると考えております。

北斗市は合併してから12年目を迎え、今年は来年度からスタートする第2次北斗市総合計画の策定作業を進めているところでございます。

この総合戦略は、人口減少という全国的な大きな課題を克服するため、本市にとりましては、第1次総合計画と第2次総合計画の橋渡しの位置付けにあたるものでございます。

また、総合戦略に掲げている4つの基本目標は、第2次総合計画の当面の重点テーマとして設定することとしております。

このような視点から、本市の総合戦略を着実に推進するため、市役所内部におきましても、総合戦略に掲げている施策の達成度やKPIの進捗状況を検証しているところでございます。

この後、担当の方から説明いたしますが、昨年度の施策の実施結果及び本年度の実施状況をまとめたところでございます。

行政内部では一般的であったり、達成していると考えられることであっても、市民目線、市民感覚的には不十分と考えられるものもあろうかと思っております。

このようなことから、外部委員の皆様による検証は必要不可欠なものでございます。

委員の皆様方におかれましては、総合戦略を着実に推進するため、本日の会議におきましても、これまでと同様忌憚のないご意見やご提案を賜りますようよろしくお願い申し上げます。開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

○配付資料について説明

○委嘱状の机上配付について説明

2 委員の紹介

○資料に従い、前回から変更のあった委員（5名）を紹介

3 会長及び副会長の選出

○事務局の提案とおり、昨年同様、会長、副会長を指名

○会長より、会長就任挨拶

この会議は、北斗市のまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定、さらには戦略の推進に向けた検証を行うために、平成27年7月に設置以来、私は会長として参画させていただいております。

北海道新幹線の開業を控えまして、その効果が未知数であるという中で、非常に大きな期待を込めて、またその効果を最大限に活用することを前提として、総合戦略を検討してまいった次第でございます。

本日の会議では、総合戦略に掲げている各施策の実施状況について、事務局から説明を頂戴するわけですが、新幹線の開業から1年半経過しております。

どのような状況の変化があって、またその変化をKPIを中心としまして、数値として確認できることは、大変興味深いですし、意義あるものだと考えている次第です。

今も差し替え版の資料紹介がございましたけれども、非常にボリュームが大きいので、何卒委員の皆様のご協力をいただいて、円滑な議事の進行に努めてまいりたいと思いますので、重ね重ねですがよろしくお願ひ申し上げます。

◎司会進行 会長（会議終了まで）

4 議事

(1) 北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

○地方創生担当課長から資料1・資料2に従い、基本目標ごとに説明を行い、質疑を受けた。

・基本目標1についての質疑

委員名	発言内容
委員	平日のほっくるが集客に非常に苦戦しているということなので、北斗市民の皆さんにも活用してもらえるように、市の広報誌などでほっくるのPRをしたり、クーポン券を発行するなどして活性化するようにしていただきたい。 田んぼアートは今年実施していないということで、結構楽しみにしていた方もいたので、ぜひ来年実施していただければと思っている。
経済部長	ほっくるの賑わいという部分については、入っている業者でほっくるの会という会を組織している。 どういった形で集客を増加させるということが可能なのかを含めて、ほっくるの会とも相談しながら進めていきたい。 また、田んぼアートについては、地権者のご意向ということもあるので、なかなか難しいものではあると思うが、簡単にあきらめるという話ではなく、粘り強く話をしていきたい。

・基本目標2についての質疑

委員名	発言内容
委員	103人転出超過という数値については、市役所としては想定内の数値か、それとも意外な数値なのか。
総務部長	人口動態の関係について転出超過が想定内かということだが、策定時147人の転出超過から、平成29年3月時点では103人に縮まっているということで、想定

	内・外というよりは、いい方向に向かっている状況であると理解している。 今後は移住支援、メニューを持っているので、この辺を含め北斗市の特徴をPRして、この差がもっと縮まって行って、均衡化へ向かうようにしていきたい。
委員	大野地域については、企業が人を募集しても中々人が入ってこない。 募集すら来ないという会社があり、企業誘致についても工業団地としていろいろな会社に声をかけているが、まず聞かれるのは人が集まるのかということである。 現状として、他の会社の人たちと話をすると、人が足りないということで、結局は外国人労働者を雇用して、何とかやりくりしている状況である。 市長のトップセールスを行うのか、人を増やすのが先か、非常に難しい問題だが、避けては通れない問題である。 また、目標数値というものとは未知なことで圧倒的に情報量が少ない中で策定したものだと思う。 1年経って、近隣の市町も同じようなことを行っており、人の問題となると、椅子取りゲームみたいな形になりかねないので、もし失敗例とか他の市町であれば情報を集めて、かつ終了基準のようなものを決めて、見直しに関する条件を設けなければいけないのではないかという気がする。
総務部長	労働力の関係では大野地区に限らず、例えば市で農家のパートの斡旋事業を行っているが、一頃よりは希望者が少なくなってきた。 委員ご指摘のように、農家も外国人労働者のパートのほうにシフトしつつある。 人口増加と雇用関係でいうと、最終的に仕事、雇用の場をどうやって確保していくのかということである。 移住を漠然と考えている方は全国に多数いるが、その中でも北海道で子育てしたいという思いを持っている方もかなりいるようである。 ただし、具体的な行動につながるためには、支援制度だけでなく、暮らしを維持できる、収入を確保できる仕事があるのかないのか、それがなければシニア層の二地域居住であるとか、涼しい期間だけ北海道で過ごすというような移住ではなく、交流人口の拡大でとどまってしまうという実態をおさえているので、雇用の確保という部分では市長のトップセールスによる企業立地を進めるが、同時に市内の既存企業の課題を少しでもクリアできるよう、ホームページに市内の企業から集めた雇用の情報を紹介するというのも実施していきたい。 近隣市町との兼ね合い、事業の見直し、終了については、総合戦略については平成31年度までの計画期間であることから、皆様方から意見をいただき、毎年度検証した上で検討を重ねていく考えである。

・基本目標3についての質疑

委員名	発言内容
委員	対外競技等への参加について、何人かの父兄から出場するのが大変だということ聞いたのだが、旅費などはどの程度補助されているのか。
学教課 総務係長	小中学校の学校教育に関する大会の経費については、宿泊料、旅費、参加費については全額補助している。
社教課長	子ども対外競技等参加補助事業としての社会教育活動にかかる経費については、3分の2の補助をしており、大会の種類などにより補助が行えるもの、行えないものを要綱で定めている。
総務部長	今後の参考とさせていただきたい点について意見を頂戴したい。 婚活支援事業について、総合戦略を策定する段階でこの会議の中でも賛否両論いただいた。 市の現時点での考え方は、市が直接実施する、積極的に支援するという点については、消極的な考え方である。 結婚は、個人の意思に基づくものであり、プライバシーの領域に踏み込んでいくというようなことを踏まえると、北海道や民間が主体として行うものをPRしていくが、市が積極的に関わるスタンスは現時点でもっていない。 この点について、戦略策定時から1年程度経過した段階、現在の社会情勢を踏まえ、婚活支援についてどのような関わりを持つべきかという考えがあれば参考までにお聞かせ願いたい。

委員	市の方では積極的に動けなかったが、昨年度商工会青年部が代わりに実施し、北斗星を使ってテレビ放映等もされ、成功したと思うので、これからも青年部を中心に頑張ってもらいたい。
委員	原則満場一致でなければ事業は実行できないのか。
総務部長	現時点での総合戦略の中で基本的な考え方は、市が積極的に前に出て支援するというについては、消極的だということである。 仮に総合戦略を変更するというになると、この会議での議論が必要となってくると思うが、計画の変更というよりは、今後婚活支援事業に市が向き合っていくにあたり、行政のかかわり方についてご意見をいただきたいということであり、答えを出すということではなく、委員の方のご意見を伺いたいということである。
委員	随所の各論については、全員の同意を得なくても、同意する人が多数いれば実施してもよいのではないかという思いはある。
総務部長	平成28年度は商工会青年部が実施主体となって、北海道からの補助金を受け、マスコミを取り込んで録画放送されている。 いさりび鉄道を利用して鉄婚という形で実施され、その合間に茂辺地の北斗星のスポットで交流がされている。 市としては、間接的な関係として北海道の補助金を受けるための事務的な補助やPRを実施し、具体的な婚活支援というものはこの程度のもののみである。

・基本計画4について以下の質疑

委員名	発言内容
委員	いつも道南いさりび鉄道を自分の足代わりに使っているが、これからも残ってほしいという思いがある。 いさりび鉄道としても、季節ごとに車内への飾りつけなどを実施しているが、それを見ているのは中高年が多く、若い人はあまりそれに目がいていないと思う。 今後できれば、市公式キャラクターのズーシーほっきーとコラボしたものを考えていただければありがたいと考えている。 ズーシーほっきーに関しては、自分の遠くにいる友人が喜んでくれている。 もっとファン層を掘り起こしていくこともできるのではないか。 そのような相乗効果によって、いさりび鉄道の増客にもつながるのではないかという思いがある。
総務部長	いさりび鉄道は、北斗市にとっても重要な公共交通と捉えているので、できることはやっていきたいという考えである。 いさりび鉄道が利用者の掘り起こしをやっていくが、北斗市としても沿線自治体として、ただ今頂いた意見等も踏まえ、積極的な利用促進という面で関わっていきたい。 ズーシーほっきーの活用については、新幹線開業前後は、北斗市をPRするために様々な活躍をしてもらっている。 今後も人気を持続して伸ばせるよう、いろいろな場面で活用し、効果が出るようなものを検討していきたい。

(2) 地方創生加速化交付金(H28)事業実施報告について

○地方創生担当課長から、資料3に従い説明し、その後質疑を受けた。

委員名	発言内容
会長	田んぼアートについて、今年の秋も楽しみにしていた方もいたと思うが、今年度は地権者のご意向で実施しないということだが、来年以降の計画についてお聞きしたい。
経済部長	新駅北側については地権者様のご意向ということで、先に説明のとおりである。 それが変わる可能性は低いという思いはしているが、この場所以外での実施について検証しているところである。 田んぼアートの取り組みそのものは、非常に効果的なものであり、昨年場所が最適な場所であったということは重々承知しているが、仮に場所が変わったとしても、できるものであればやっていきたいという考えだが、具体的にどの場所で検討

	しているかということを上申する段階にはない。
委員	観光入込客数の内訳として、道外・道内の割合などは把握されているのか。
経済部長	観光入込客数の算出については、市内の観光施設、宿泊施設の利用者数、各種イベントの来場者数を積み上げているので、その内訳として何処から来ているかという集計はできない状況である。
委員	行政としてまちづくりの基本的なプランがないと、施策に対して日常的な枝葉の部分の対応は行われているが、本来人口増加を狙った施策をいかに行っていくかが重要だと思うので、行政主導で市民がはっきりわかるような大きな基本目標を打ち上げていただきたい。 人口の定住化、または非定住化であっても経済に寄与する企業の誘致を行政主導で反対の人も賛成に回るような動きをとってもらいたい。
総務部長	今現在、次期10年間の総合計画を策定しており、その中で将来像として「ほっとする くらしがある ともにすすめるまちづくり」を掲げる予定である。 まちづくりに関しては、市民の皆様が様々な行政ニーズを持っており、企業誘致、雇用の確保などいろいろある。 北斗市の場合は、子育てから高齢者までの福祉の充実を後退させずに、移住・人口減少問題に係る部分でいうと子育て支援の充実であったり、子供の教育環境の充実向上などをPRしながら進めていきたい。 喫緊の課題である人口減少にどのように向き合っていくのかというのが、総合戦略の目指すところであり、国が求めている地方創生であると考えている。
会長	本事業に対するこの会議による評価としては、総合戦略のKPI達成に有効であったという整理としたい。

(3)その他

本日の議事はここまでとなるが、その他ということで全体をとおして何かあればご意見を伺いたい。
その他事務局からの連絡事項があればお願いする。

地方創生担当課長より、数値目標や施策について、今後今年度中に見直しが必要であると判断した場合には、第2回目の会議を開催させていただきたい旨説明。

5. 閉会

本日の会議を終了する。